

未来／追想 千葉市美術館と現代美術

開館30周年記念



会 期 2025年8月2日(土)ー10月19日(日)
開館時間 10:00ー18:00(金・土曜日は20:00まで) ※入場受付は閉館の30分前まで
休 室 日 毎週月曜日(祝日の場合は開室、翌火曜日は閉室)
観 覧 料 一般1,500円(1,200円)、大学生1,000円(800円)、小・中学生、高校生無料
※障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料 ※()内は前売り、市内在住65歳以上の方の料金 ※前売券は千葉市美術館ミュージアムショップ、ローソンチケット(Lコード:37028)、セブンイレブン(セブンチケット)、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口にて8月1日まで販売(8月2日以降は当日販売)。
◎親子割引:一般1,200円(高校生以下のお子様とご来館の保護者2名まで)
◎10月18日(土)は「市民の日」につき観覧無料
◎本展チケットで5階常設展示室「千葉市美術館コレクション選」もご覧いただけます。

主 催 千葉市美術館

草間彌生、河原温、田中敦子、中西夏之、河口龍夫、杉本博司、辰野登恵子、吉澤美香、具体美術協会、実験工房、反芸術、ハイレッド・センター…
現代美術のコレクションでたどる過去と未来

概要

千葉市美術館は1995年に開館し、今年で30周年を迎えました。「開館30周年記念 未来／追想 千葉市美術館と現代美術」展では、美術館の建築が着工した1991年より継続して収集されてきた現代美術のコレクションから約180点を精選し、戦後美術の多様な展開をたどります。

コレクションは美術館の核であり、活動の原動力といえます。近世から現代、房総ゆかりの作品まで幅広い時代、表現の収集によって体系化されてきた当館のコレクションは、その独自性と重要性が高く評価されています。また、開館当初より収蔵作品に光を当て、国内外の社会状況と密接に関係し今日に至る現代美術を、展覧会において紹介してきました。1996年の開館記念第2弾「Tranquilityー静謐」展から本年の「ノック ノック!千葉市美術館をたのしむ4つの扉」展まで、現代美術に関連する展覧会は120を数えます。

千葉市美術館は構想段階より、未来を指向することが書き記されていました。文化芸術による人、まち、未来づくりを基本理念とし、創造性豊かな都市を目指す千葉市とともに成長する美術館となるべく、より多様で持続可能な社会に向けて活動してまいります。コレクションの収集と活用による新たな価値の創造を担う文化芸術の拠点として、本展が過去を振り返り、これからを思い描く機会となれば幸いです。

記者レクチャー・内覧会

一般公開に先駆けて報道関係の皆様を対象に、記者レクチャーおよび内覧会を行います。展覧会の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。

2025年8月1日(金)14:00(13:30開場)ー18:00／8階展示室にて

参加ご希望の方は、申込書に必要事項をご記入の上、メールまたはFAXにてご連絡ください。

本展の見どころ

開館 30 周年の千葉市美術館と現代美術

千葉市美術館は1995年11月3日に開館し、本年で開館30周年をむかえます。10,000点を超えるコレクションの中では浮世絵や日本絵画が有名ですが、現代美術も約1,800点を所蔵し、充実したコレクションとなっています。本展ではそのコレクションから国内外からも注目される具体美術協会、実験工房、中西夏之、河原温、草間彌生氏といった1950年代から1990年代にかけての作品約180点を展示。戦後の日本美術史をたどるとともに、近年収蔵した若手作家の作品も展示し、過去から未来へとつながる美術館の活動をご覧いただく機会となります。

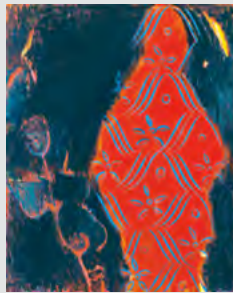
なかでも、世界的に評価される草間彌生氏の作品では、代表作である「無限の網 (Infinity Nets)」シリーズの大型作品《No.B White》の他、寄託作品を含む19点を収蔵しており、本展にて全点公開いたします。



中西夏之《作品一たとえば波打ち際にてIX》1985年 千葉市美術館蔵
© NATSUYUKI NAKANISHI



河原温《百万年-未来》1983年 千葉市美術館蔵
© One Million Years Foundation



辰野登恵子《Work 86-P-14》1986年 千葉市美術館蔵

過去に開催された現代美術展を紹介、 展覧会再現展示も



企画展「超克するかたち—彫刻と立体」(1997年)
チラシ(左)とさや堂ホールでの展示風景(上)

これまでに千葉市美術館では、120件以上の現代美術展を開催してきました。開館当初から現代美術の重要性を認識し、開館記念展第2弾の「Tranquility—静謐」(1996年)では、現在も活躍する写真家・現代美術家の杉本博司氏の展示を行ったほか、千葉県を活動の拠点とする現代美術家の河川龍夫氏の個展や、20世紀の美術の展開に大きな影響を与えたマルセル・デュシャンと日本の関係を紐解いた「瀧口修造とマルセル・デュシャン」展(2011年)を開催するなど、質の高い展示を継続的にを行っています。本展では、これまで開催した展覧会の歩みを改めて提示し、1927年築の旧川崎銀行千葉支店を保存したさや堂ホールも利用して、過去の展覧会の一部も再現します。

夏休み期間はオリジナルゲーム体験や NFT デジタルスタンプラリーなどイベントも開催

本展のために、漫画家・芸術家として活躍する西島大介氏によるオリジナルゲーム「さいばあばんく：千葉市美術館」がつくられました。SFジャンルの「サイバーパンク」小説の金字塔である『ニューロマンサー』の舞台ともなった千葉市から着想を得て、千葉市美術館1階のさや堂ホールをモチーフにした女の子「さやちゃん」が市内や美術館をめぐるゲームとなっています。8月2日～31日は1階多目的室にて80年代のアーケードゲーム筐体によって体験することができ、ゲームの NFT アートが獲得できる NFT デジタルスタンプラリーも開催し、展覧会とあわせて子どもから大人まで、幅広い年代で楽しめるイベントが目白押しです。また、展覧会ロビーおよび4階びじゅつライブラリーにて、アーティスト・コレクティブ「サバティカル・カンパニー」による、千葉市美術館のアーカイブプロジェクトも行います。



西島大介「さいばあばんく：千葉市美術館」イメージ画像

「さいばあばんく：千葉市美術館」体験版はこちらから→



出品予定作家

赤瀬川原平、阿部展也、荒川修作、今井俊満、植木茂、大岡信、大辻清司、岡崎和郎、岡田謙三、桂ゆき、金山明、加納光於、河川龍夫、河原温、北代省三、清水九兵衛、草間彌生、工藤哲巳、桑山忠明、小清水漸、駒井哲郎、斎藤義重、篠原有司男、白髪一雄、菅木志雄、杉本博司、須田悦弘、鷺見和紀郎、高松次郎、瀧口修造、辰野登恵子、立石紘一、田中敦子、土谷武、勅使河原送風、堂本尚郎、中西夏之、西村陽平、Nerhol、濱口富治、福岡敬恭、本城直季、三木富雄、村岡三郎、目[mé]、元永定正、八木正、柳原義達、山口勝弘、山田光、吉澤美香、吉田志穂、デニス・オッペンハイム、ダン・グラハム、ジョセフ・コースス、ロバート・スミッソン、マルセル・デュシャン、イサム・ノグチ、ダニエル・ビュラン、サム・フランシス、ソル・ルウィット ほか

過去の千葉市美術館での主な現代美術展覧会

「Tranquility—静謐」(1996年)、「桑山忠明 プロジェクト '96」(1996年)、「超克するかたち—彫刻と立体」(1997年)、「関係—河川龍夫」(1997年 ※1)、「菅木志雄展」(1998年)、「草月とその時代」(1998年)、「ジョセフ・コースス 1965-1999」(1999年)、「ミニマル マキシマル」(2001年)、「斎藤義重展」(2003年 ※2)、「ダン・グレアムによるダン・グレアム」(2003年)、「瀧口修造とマルセル・デュシャン」(2011年)、「須田悦弘展」(2012年)、「赤瀬川原平の芸術原論」(2014年 ※3)、「杉本博司 趣味と芸術—味占郷／今昔三部作」(2015年)、「岡崎和郎 Who's Who—見立ての手法」(2016年 ※4)、「目[mé] 非常にはっきりとわからない」(2019年)、「Nerhol 水平線を捲る」(2024年) など



※1



※2



※3



※4

広報用画像一覧

展覧会広報用として作品画像をご用意しております。ぜひ、本展をご紹介しますようお願いいたします。
ご紹介いただける場合は、別紙の申込書に必要事項をご記入の上、FAX またはメールにてご連絡ください。
画像の使用は1回限りとし、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。



1 田中敦子《Thanks Sam》1963年 千葉市美術館蔵
© Kanayama Akira and Tanaka Atsuko Association
※ウェブ上で使用する場合はコピーガードをかけ、長辺400pixel
以下(72dpi)にしてください。



2 中西夏之《作品一たとえば波打ち際にてIX》1985年 千葉市美術館蔵 © NATSUYUKI NAKANISHI



3 河原温《百万年-未来》1983年 千葉市美術館蔵
© One Million Years Foundation



4 河口龍夫《石と光》1971/1989年 千葉市美術館蔵 撮影:齋藤さだむ



5 辰野登恵子《Work 86-P-14》1986年 千葉市美術館蔵



6 桂ゆき《二十連発》1969年 千葉市美術館蔵

広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書

■写真ご使用に際してのお願い

- * 作品写真の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- * 写真のご利用は、1 申込について 1 回とし、使用後のデータは破棄してください。
- * 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- * 掲載後、広報担当まで見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。
- * お手数ですが、招待券プレゼントの受付、発送などは、貴編集部にてお願いいたします。
原則として、掲載紙をご送付いただきました時に招待券をお送りいたします。

千葉市美術館
広報担当 磯野 行
E-mail : isono@ccma-net.jp
FAX : 043-221-2316

貴社名：	媒体名：
ご担当者名：	発行予定日：
TEL：	発行部数：
FAX：	定価：
Email：	掲載予定コーナー名等：
画像到着希望日： 月 日 時まで	画像の掲載サイズ (おおよそで結構です 例：5cm 四方、など) ：

■画像データ申込（ご希望のデータの番号に○をつけてください。）

- 1 田中敦子《Thanks Sam》1963年 千葉市美術館蔵 © Kanayama Akira and Tanaka Atsuko Association
※ウェブ上で使用する場合はコピーガードをかけ、長辺400pixel以下(72dpi)にしてください。
- 2 中西夏之《作品一たとえば波打ち際にてIX》1985年 千葉市美術館蔵 © NATSUYUKI NAKANISHI
- 3 河原温《百万年-未来》1983年 千葉市美術館蔵 © One Million Years Foundation
- 4 河口龍夫《石と光》1971/1989年 千葉市美術館蔵 撮影：齋藤さだむ
- 5 辰野登恵子《Work 86-P-14》1986年 千葉市美術館蔵
- 6 桂ゆき《二十連発》1969年 千葉市美術館蔵

■「開館30周年記念 未来／追想 千葉市美術館と現代美術」プレゼント用招待券申込
(ご希望の場合はチェックをつけてください)

☐ 5組10名様分 希望します。

(それ以外の枚数が必要な場合は別途ご相談ください。)

チケット送付先

ご住所：〒

問い合わせ先

千葉市美術館

〒260-0013 千葉市中央区中央 3-10-8

広報担当：磯野 愛

Tel. 043-221-2311 (代表) / 043-221-2313 (直通)

Fax. 043-221-2316

E-mail isono@ccma-net.jp

HP <https://www.ccma-net.jp/>

未来

開館
30周年
記念

30th Anniversary of the Museum's Opening
Recorded Futures Relived:
CCMA and Contemporary Art

千葉市美術館と現代美術

追想

記者レクチャー・内覧会 2025年8月1日(金) 14:00～ 8階展示室にて

報道関係の皆様を対象に披露説明会および内覧会を行います。
展覧会の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。

[タイムスケジュール(予定)]

13:30～ 記者レクチャー会場へのエレベーター稼働・開場

14:00～ 担当学芸員より会場にてご説明

14:15頃～18:00 自由内覧

参加ご希望の方は下記項目にご記入の上、

E-mail: isono@ccma-net.jp または FAX: 043-221-2316

までご返信ください。

ご芳名

ご所属

貴媒体名

お電話番号

E-mail

問い合わせ先 広報担当 磯野 愛
Tel. 043-221-2313 (直通)
isono@ccma-net.jp

千葉市美術館
〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-8
HP. <https://www.ccma-net.jp/>